

令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

京都府

（地域における現状・課題）

1. 本府では生徒数減少により10年前と比較し、運動部加入生徒数も運動部設置数等が減少し、学校によっては部員確保が困難な種目もある。
2. 令和4年度モデル地域対象アンケートにて、「入りたい活動がない」という回答が多く、学校にも地域にもスポーツ環境が整っていない状況が把握できた。
3. 学校部活動は、教師の献身的な勤務によって支えられており、長時間勤務の要因や、指導経験のない教師には多大な負担となっているケースも見られる。
4. 生徒のニーズの把握と地域の資源を有効活用し、生徒の志向や体力等の状況に適したスポーツの機会を保障するとともに、教師の負担軽減につながる仕組みを構築する必要がある。

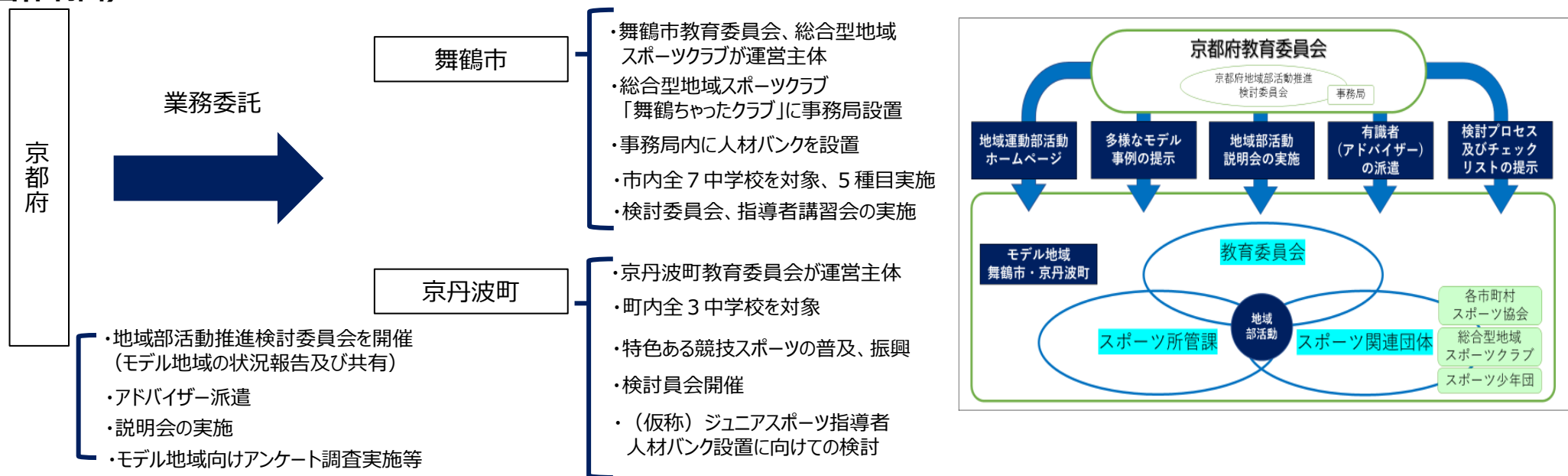
（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

1. 京都府地域部活動推進検討委員会（年間3回：①R3年度概要報告、R4年度のモデル地域事業計画②説明会及び各市町村進捗状況報告③検討アンケート結果等）
2. 説明会の実施（年間4回実施：①スポーツ庁より概要説明等②先進地による基調講演・自治体別意見交換③概算要求状況の把握④R5年度予算把握）
3. 地域運動部活動支援アドバイザーの派遣（希望する市町村へアドバイザーを派遣し協議会設置に向けた助言を行った。）
4. 各地域が実態に応じて活動の選択ができる仕組みを構築できるよう、各自治体が検討する際のプロセスや検討チェックリストを提示した。

（実践研究の成果）〈検証アンケート結果より〉

1. 生徒は「体力・技術向上」「友人が増える」ことを実感
2. 生徒は「平日と指導者が異なる」ことに肯定的な印象をもつ
3. 教員は「休日の疲労感」「専門的指導力の不足」の解消を実感
4. 教員の「土曜に学校、日曜に地域」の指導実態に兼職兼業の課題
5. 保護者は「送迎や経費負担」への不安が大きい
6. 指導者は「地域が担うこと」に「地域のスポーツ振興」を期待

（運営体制図）



令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

京丹波町

（地域における現状・課題）

少子化が著しく進展し、町立3中学校とも、生徒数の減少により、町立中学校の複数の部活動の維持継続が困難な状況に直面している。休日等の部活動指導で、疲弊感が高まっている教員もいるが、急速な高齢化と相まって、地域の外部指導者の人材確保は困難な状況となっている。生徒ができる限り自由に選択可能な部活動の維持継続及び教員の働き方改革の実現に向け、部活動の持続可能で多様な在り方について実践研究を行った。

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：京丹波町教育委員会

責任主体：京丹波町教育委員会

活動場所：和知B&G海洋センターカヌー艇庫、グリーンランド瑞穂ホッケー場
京都トレーニングセンター

活動種目：カヌー、ホッケー、インラインスケート、

会費等：0円

指導者：地域指導者、教師（兼職兼業）

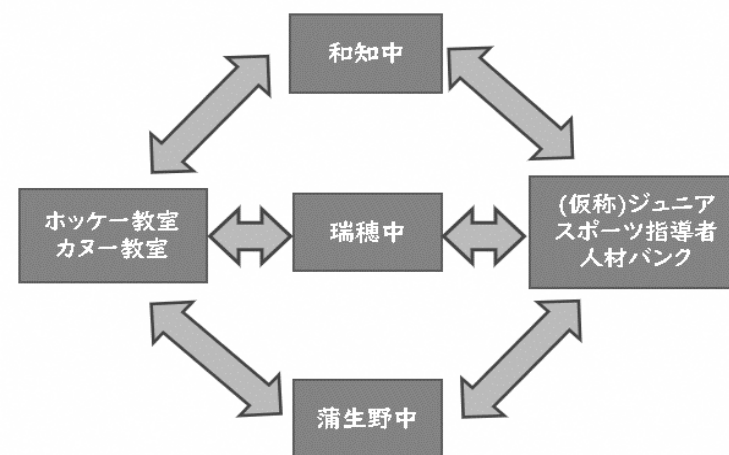
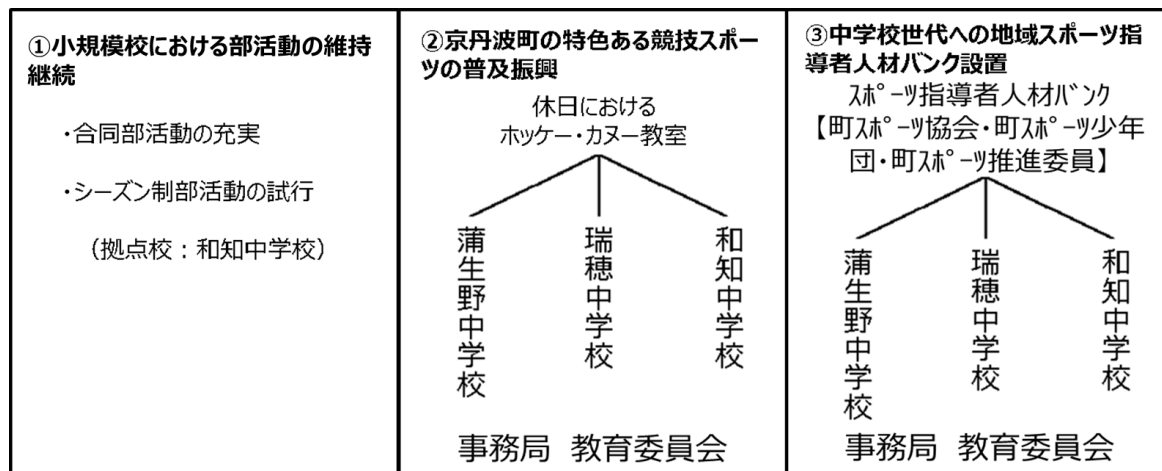
保険：112円（同種他事業と併せて町が一括加入）

移動手段：徒歩、自転車、スクールバス

（実践研究の成果）

- ①部活動設置数 維持 19部（令和4年度、町立中学校の運動部活動は合計19部あり、活動を維持することができた。）
- ②京丹波町の特色ある競技スポーツの普及、振興
 - ・ホッケー教室を開催し、地域の小学生、中学生、高校生、一般の方が参加、地域の多世代の方と交流することができた。
 - ・フリースポーツ部において、新規団体から新しい種目の提案があり、生徒が新たなスポーツ（インラインスケート）に取り組むことができた。
 - ・町内にある京都トレーニングセンターを利用して、小学生中学生対象に、体力や競技力の向上に係る専門的な指導の他、メンタル面や栄養面の指導を受けた。
- ③（仮称）ジュニアスポーツ指導者人材バンクの設置（京丹波町部活動検討委員会を開催し、人材バンクの設置を検討協議した。）

（運営体制図）



令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

舞鶴市

（地域における現状・課題）

- ・生徒・保護者にとって望ましい地域部活動と、教員の負担軽減
- ・舞鶴市7中学校66部活動に在籍している生徒の受け皿確保のために、基盤作り運営体制作りが必要
- ・学校部活動の地域移行について、舞鶴市教職員や生徒・保護者、スポーツ協会傘下の連盟やスポーツ少年団等への周知

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：舞鶴市教育委員会

総合型地域スポーツクラブ（舞鶴ちゃったスポーツクラブ）

活動場所：舞鶴市文化公園体育館/市内小中学校体育館等

指導者：人材バンク登録者・ボランティア参加者

移動手段：徒歩、自転車、保護者送迎、バス、電車

責任主体：舞鶴市教育委員会

活動種目：剣道、柔道、陸上、ソフトボール、基礎部活

会費等：0円

保険：800円（スポーツ安全保険）

（実践研究の成果）

- ・生徒からは「他校と一緒に練習ができて嬉しい」「たくさんの先生に教えてもらえてよかった」という声が多く、充実した活動になった。
- ・保護者からは「専門的な指導は嬉しいが、送迎が大変」「金銭面での負担がかかるのは抵抗がある」という声が多かった。
- ・教師からは「まだ地域部活動が生徒や保護者に浸透しておらず、休日に部活をしないことに抵抗がある」との声があった。
- ・地域指導者からは「指導する喜びや、競技の普及発展にやりがいを感じた」「いつもボランティアだが、謝礼がでるのは有難い」との声が多かった。
- ・運営体制として、地域移行の一つの形が作れたこと、スポーツ協会会長や校長会長と連携した合同会議を開催できたことは大きな成果だった。一方、金銭面での持続可能な形や指導者の質・量の確保が課題として挙げられる。

（運営体制図）

